

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102948
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきの里
所在地	松山市古川北1丁目25-24
自己評価作成日	平成 22年 9 月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の連携ができており、毎日利用者の身体状況を細かく観察・報告を行い、元気で安心した生活が送れるよう支援しています。また、年2回、地域住民・家族対象に認知症フォーラムを開催し認知症への理解を求めるとともに、地域の中での認知症ケアの拠点となるよう努力しています。 行事の際には法人内の事業所と協力し大きな規模で行い、地域住民・他事業所を招待して交流を図っています。 今年からアロマセラピーも導入し、定期的に法人内での勉強会・報告会を行い、リラックスや安眠の成果が得られるようになってきており、更に充実させていけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療と福祉の連携で利用者の生活を支援することを理念に、地域医療に力を入れている診療所が運営母体のホームである。地域との交流に力を入れており、自治会活動へ積極的に参加し、お祭りや行事等で地域住民との交流を行っている。人としての姿勢まで踏み込んだ話し合いがもたれ、終末期のケアについて真摯に取り組んでいる。今年の12月で開設9年目を迎えるが、まだやるべきことはあると、絶えず利用者の生活の質向上を目指しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 泉本 厚子

評価完了日 平成 22 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスについて事業所全体で話し合い、それに基づいた理念を掲げている。朝礼やミーティングの際に確認しあい日々のケアにつなげる努力をしている。 (外部評価) 医療法人が運営主体であるため、医療と福祉の連携を理念のベースにしており、利用者に安心した生活が提供できるよう実践している。医療や福祉の専門知識を地域に還元するために、近隣者を交えた研修会にも力を入れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事へ参加したりチラシを配布してホーム行事への参加も促している。また、定期的に地域・家族対象の研修会を行い地域の中での介護の拠点となるよう努力している。 (外部評価) 運営者は地域医療を重視しており、地域住民からの信頼も厚い。ホームでも地域との交流に力を入れており、自治会活動へ積極的に参加し、お祭りや行事等で地域住民とのふれあいがホームの日常生活に定着している。	ホームでは、近隣者に気軽に訪ねてもらい利用者と日常の付き合いができることが、ホームが地域の一員となることと捉えている。そのために、管理者が培ってきた地域とのつながりを、各ユニット長に引き継ぐ取り組みを行っている。職員にも意欲が感じられるので、積極的な活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域・家族対象に年2回研修会を行い、認知症についてや認知症者への関わり方など共に学べる機会を設けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2月毎に運営推進会議を開催し様々な方から意見・アドバイスをいただき、それを日々のケアに活かせるよう努力している。	
			(外部評価) 運営推進会議では利用者へのサービス向上について多角的に議論され、開催方法等も工夫されている。職員にも積極的に参加を促し、ホーム全体で会議を有意義なものにしようとしてる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営・サービス提供についてアドバイスをいただいている。また、運営推進会議にも参加していただき意見交換行なっている。	
			(外部評価) 法人が定期的に行っている地域を交えた研修会に市担当者が講演を行ったり、資料や情報が提供されたりとよい協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会・院内勉強会にて身体拘束について正しく学び、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者と職員は日常的に身体拘束をしないケアを実践しようと話し合っている。利用者の安全の確保が精神的な拘束につながらないよう、家族等とも話し合いを重ねている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会・院内勉強会にて学ぶ機会を設けている。職員同士で確認し合い身体的・精神的・社会的虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加したり市職員や地域包括支援センター職員より情報をいただいている。また、利用者・家族への必要性についても定期的に話し合いを行なっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行ない理解・納得をいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 口頭でのコミュニケーションだけでなく、家族との連絡ノートを作り情報交換を行なうと共に、意見・苦情等を聞きだすことに努めている。	
			(外部評価) 利用期間が長くなっている利用者家族からの意見が少なくなることへの対策として、家族等と一緒に勉強会を行っている。家族の気付きや振りかえりの機会にもなり、「共に席に着く」ことで気軽に話ができる関係構築の場ともなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会・ミーティングの際に意見交換行なっている。また、適宜スタッフ会議を行い意見を出し合っている。 (外部評価) 医師である代表者は、利用者に安心したケアを提供するには、職員に利用者の実情にそった医療的な知識が必要と考えており、研修会以外でも現場職員との話し合いに力を入れている。ユニット長等からの意見や提案を管理者と連携を取りながら、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員努力・勤務状況を把握し即対応している。また、資格取得への支援も行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会への参加を促したり、法人内の勉強会・ミーティングにて知識・技術を身につけることで質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 自他ホームの運営推進会議に参加しあい意見交換を行なっている。また、地区のグループホーム連絡会に参加しネットワーク作りに努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 必ず事前訪問を行い本人の訴えを確認している。また、見学の際に家族からも意見をもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問等で得た情報を基に暫定的なケアプランを作成、説明行い理解いただいている。その際に事業所と家族の協力体制についても説明行なっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問等で得た情報を基に暫定的なケアプランを作成、説明行い理解いただいている。面談にはケアマネージャーにも同席していただき、安心してサービスを利用できるよう配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共に過ごし信頼関係を築けるよう努めている。また、利用者の残存機能を見極め、お互いを共感し支えあう関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の状況をこまめに報告・相談し、共に支えていく関係を築いている。遠方の家族には定期的に電話・FAXにて事情協報告行なっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来やすい、居心地の良い空間・雰囲気作りに努めている。また、電話や手紙など関係維持への支援も行なっている。 (外部評価) 利用者が馴染みの関係を維持できるように、日常会話の中に利用者を訪ねてきた友人や知人の話を盛り込み、利用者に印象付ける取り組みを行っている。また、利用者が近隣に馴染めるよう、ちょっとした買い物に頻回に出るようし、関係性の広がりにも力を入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が共に過ごせる環境づくりを心がけている。職員も輪に入ることによってトラブルの回避にも努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も本人・家族が安心して過ごせるよう他サービスの紹介や相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自己決定を尊重し、出来る限り本人の意向に沿った対応を行なっている。 (外部評価) 利用者の生活歴を丁寧に聞き出し、希望や意向を理解している。聞き出した情報は、利用者の生活を安定させるために重要であることを認識しており、ミーティング等で共有をしている。	現在は職員体制が余り変わらず利用者の変動も少ないことから、生活歴は話し合いだけで把握することが可能であるが、記憶は経年劣化するため過去の記載分をいつでも確認できる記録や記載の仕組みづくりを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前・後に得た情報を参考にすると共に、本人との関わりのなかで気付いた事も注目しケアに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の身体状況・残存機能を見極め、生活歴に基づいたその人らしい生活が出来るよう支援している。また、日々の状態については申し送りにて情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の状態・家族のニーズ等を把握し、その人らしい生活が出来るようケアプランを作成、ケアを実施している。また、毎月のモニタリング、随時のスタッフ会議にて意見交換を行いプランに反映させている。 (外部評価) 介護計画は、利用者の担当職員と計画作成担当者で素案が作成され、スタッフ会議での話し合いで作成されている。日々の日誌から利用者の体調に関する内容は申し送りノートに記載し、介護計画の資料として活用している。医療面では、母体診療所の婦長による見守りが介護計画に反映されている。	モニタリングは職員の振り返りや話し合いで行われているが、介護記録に記載されている内容から、客観的な視点でのモニタリングを期待したい。そのためには、介護計画に沿った記載内容になることが望ましく、記載内容やその方法の検討も必要と思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はもちろん、生活の中での気づきも記録に残し情報の共有に努め、サービスへ反映させている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内のデイケアや小規模多機能と連携し、本人・家族のニーズに合わせて様々なサービスの提供を行なっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 様々なボランティアを通して地域との交流を図ったり、防災訓練に民生委員の方々に参加していただき有事の際の協力体制を楽しんでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の意向を尊重し受信できるよう支援してい る。緊急時は職員が同行し必要な医療が受けられるよ う配慮している。 (外部評価) 運営母体が在宅医療に力を入れている診療所であるた め、ホームを利用する以前から受診している利用者が 多い。日常の体調は職員と診療所の婦長とで見守ら れ、院長の往診も定期的に行われ、医療面の安心感が 高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 椿クリニックの看護師と24時間の協力体制が取れて いる。また、週1回ベテル病院の訪問看護師による定 期訪問看護を行なっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との連絡を取り合い安心して過ごせるよう配 慮している。また、入院時には随時面会に行き、本人 の現状を確認すると共に医療機関との情報交換を行 なっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にターミナルケアについて指針・マニュアルで説 明を行い家族の意向を確認している。また、ターミナル ケアを行なった経験をもとに勉強会等を行い職員教育に も努めている。 (外部評価) 医療と福祉の連携で安心した生活を支援するという理 念のもと、家族と共にターミナルケアを実践してい る。ホームでは、死生観を養ったりホームでの死を迎 える意義等を職務としてだけでなく、人としての姿勢 まで踏み込んだ話し合いがもたれており、終末期のケ アについて真摯に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会・ミーティングにて知識・技術を身につけている。医師・看護師より随時指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署指導の下で避難・防火訓練を行なうと共に、昼夜を想定しての自主訓練を定期的に行なっている。防災マニュアル・緊急連絡網・避難経路図等も整備し、緊急時の民生委員との協力体制も整えている。また、地域の避難場所としてホームを提供することも表明しており地域との地域との相互協力体制を築いている。 (外部評価) ホームが有事の場合は近隣者に助けを求め、近所が被害を被った場合はホームが緊急避難場所になる等、双方向の堅固な協力体制が構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけないよう配慮しケアや言葉がけを行なっている。 (外部評価) 職員の個性や年齢などにより、声掛けのニュアンスは異なるが、どの職員からも優しさが感じられる。職員から仕事や用事を依頼されると利用者は笑顔で応じており、相互の信頼関係が構築されていることがうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が意思を訴えやすい環境・関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホーム側の都合を優先する場合もあるが、出来る限り個々のペースや個別性を尊重し支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容室を利用している。また、日々の身だしなみも出来る限り本人の意思を尊重している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の能力に応じて下ごしらえや盛り付け、後片付けなど職員と一緒に調理そのものを楽しめるよう支援している。また、季節のメニューを取り入れたり、食事中に音楽をかけるなど食事が楽しめる工夫を行っている。 (外部評価) 食事介助の必要な利用者が多いが、職員は利用者と会話を楽しみながらゆったりと食事をしている。エプロンを付け後片付けを手伝う利用者もあり、食事の時間が楽しいひと時となっていることが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 高齢者に適したメニュー、利用者の好みのメニューなど考慮し作成している。水分量・摂取方法も個々の状態に合わせた支援を行なっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態に合わせた口腔ケアを毎食後行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンをもとに声かけ・トイレ誘導を行なうことで失敗やオムツ消費を防止している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。声かけや誘導はプライバシーに配慮しながら、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の水分摂取量や日々の運動量を把握し予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2日おきの入浴を基本として、状況に応じて本人の意向を尊重している。また、入浴剤やアロマオイルなどを使用し入浴そのものを楽しめる工夫も行なっている。	
			(外部評価) 入浴は清潔を保つだけでなくアロマケアも取り入れて支援しており、入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状態に応じて安息・安眠できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指導により薬に作用や副作用、用法など理解できている。また、日々の様子観察を徹底し報告・相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に合わせた役割分担を行い、その役割をこなすことで社会の一員であることが認識できるよう支援している。また、季節に応じた催し事を提供したり、日々の生活の活性化に取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の状態・気候などに応じて散歩やドライブ、買い物など行なっている。また、外出時には近所の方や地域の方とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 玄関先の広いスペースを利用し外気浴を気軽に楽しんだり、近くのコンビニに買い物でたら散歩を楽しんでいる。また、遠出や季節行事にはボランティア団体の協力を得て利用者の外出を支援している。	職員は幼児や小学生とのふれあいを増やしたいと考えており、公園や学校行事への参加を模索している。利用者の生活の質向上へは有用なことなので、早期の実現を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 紛失したり物取られ妄想等でのトラブルについて家族・本人に説明行い、同意を得てお小遣いとして預かっている。買い物際には本人が支払いを行なうなどの支援を行なっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやり取りは自由に出来るよう配慮・支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた壁絵や飾り付けを行なっている。廊下には誕生会や行事の際の写真を貼って思い出話ができるようにしている。居室内はプライベートルームとして本人の居心地の良い空間であるように支援している。	
			(外部評価) 適度な広さの共用空間で、ダイニングとリビングをうまく機能分離している。食後、ソファに移るだけでも気分が変わり、スペースを生活のシーンでうまく使い分けている。温かな日差しが差し込み、風が通り抜け心地よく過ごせる環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングではそれぞれ定位置があるが、状況に応じて対応している。また、利用者同士がなじみの関係になれるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に使用していたなじみの家具をそのまま持ち込んで使用することで出来る限りこれまでの生活が継続できるよぶ支援している。また、居室内はプライベートルームとして本人の居心地の良い空間であるように支援している。	
			(外部評価) 利用者が使い慣れた家具等が持ち込まれ、写真や絵などが個性豊かに飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 文字を大きくしたりわかりやすく配置するなど工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102948
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきの里
所在地	松山市古川北1丁目25-24
自己評価作成日	平成22年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の連携ができており、毎日利用者の身体状況を細かく観察・報告を行い、元気で安心した生活が送れるよう支援しています。また、年2回、地域住民・家族対象に認知症フォーラムを開催し認知症への理解を求めるとともに、地域の中での認知症ケアの拠点となるよう努力しています。 行事の際には法人内の事業所と協力し大きな規模で行い、地域住民・他事業所を招待して交流を図っています。 今年からアロマセラピーも導入し、定期的に法人内での勉強会・報告会を行い、リラックスや安眠の成果が得られるようになってきており、更に充実させていけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療と福祉の連携で利用者の生活を支援することを理念に、地域医療に力を入れている診療所が運営母体のホームである。地域との交流に力を入れており、自治会活動へ積極的に参加し、お祭りや行事等で地域住民との交流を行っている。人としての姿勢まで踏み込んだ話し合いがもたれ、終末期のケアについて真摯に取り組んでいる。今年の12月で開設9年目を迎えるが、まだやるべきことはあると、絶えず利用者の生活の質向上を目指しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 2F

記入者(管理者)

氏 名 泉本 厚子

評価完了日 平成 22 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」＋「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 定期的なミーティングや毎朝の申し送り時に理念を確認、職員間で共有し、実践につなげる努力をしている。 (外部評価) 医療法人が運営主体であるため、医療と福祉の連携を理念のベースにしており、利用者に安心した生活が提供できるよう実践している。医療や福祉の専門知識を地域に還元するために、近隣者を交えた研修会にも力を入れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流は少ないが、恒例行事は、近隣の方や地域の民生委員さんに案内状を手渡し、参加を声掛けしている。また、地域や家族に対して、定期的な勉強会を開催し、認知症への理解と支援が得られるような場を作っている。 (外部評価) 運営者は地域医療を重視しており、地域住民からの信頼も厚い。ホームでも地域との交流に力を入れており、自治会活動へ積極的に参加し、お祭りや行事等で地域住民とのふれあいがホームの日常生活に定着している。	ホームでは、近隣者に気軽に訪ねてもらい利用者と日常の付き合いができることが、ホームが地域の一員となることと捉えている。そのために、管理者が培ってきた地域とのつながりを、各ユニット長に引き継ぐ取り組みを行っている。職員にも意欲が感じられるので、積極的な活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 実践している職員が講師となり、年2回の勉強会を開催、認知症とその対応、支援について学べる機会を提供している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的な運営推進会議の開催に、近隣の方や地域の民生員さん、地区の役員さんに参加いただき、意見を聞くことができる。その際の意見やアドバイスを実践に役立てる努力をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議では利用者へのサービス向上について多角的に議論され、開催方法等も工夫されている。職員にも積極的に参加を促し、ホーム全体で会議を有意義なものにしようとしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、その際に必ず取り組んでいる。	
			(外部評価) 法人が定期的に行っている地域を交えた研修会に市担当者が講演を行ったり、資料や情報が提供されたりとよい協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に勉強会を行うことで、身体拘束を正しく学び理解し、実践している。ベット柵については、家族とよく話し合った上で、転落、転倒予防のため夜間のみ使用しているが、常に使用しないで済む対応を探り、取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者と職員は日常的に身体拘束をしないケアを実践しようと話し合っている。利用者の安全の確保が精神的な拘束につながらないよう、家族等とも話し合いを重ねている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的な勉強会で学ぶ機会を作っている。身体だけでなく、言葉での虐待についても、常に意識し、職員間でお互いにはっきり注意し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の勉強会に参加、学べる機会をもっている。必要と思われる家族には、詳しく説明、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 必ず十分な説明をしている。そのうえで、理解、納得を得てから、サインをいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との連絡ノートを作り、情報交換に役立てている。つばきの里からは、日々の細かな様子を書き込み、伝え忘れないようにしている。家族からは、言い出しにくい要望や苦情を書いていただき、早期対応、改善に努めている。 (外部評価) 利用期間が長くなっている利用者家族からの意見が少なくなることへの対策として、家族等と一緒に勉強会を行っている。家族の気付きや振りかえりの機会にもなり、「共に席に着く」ことで気軽に話ができる関係構築の場ともなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的なミーティング時以外にも、その時々に合わせて、スタッフ会議を行い、十分に話合って改善に努めている。 (外部評価) 医師である代表者は、利用者に安心したケアを提供するには、職員に利用者の実情にそった医療的な知識が必要と考えており、研修会以外でも現場職員との話し合いに力を入れている。ユニット長等からの意見や提案を管理者と連携を取りながら、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、ユニット長からの報告にて実情を確認し、即対応している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月法人内で、即実践に役立つ勉強会を行っている。また、研修会の内容に応じて各職員が参加できるように配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に加入するとともに、石井地区でのグループホーム連絡協議会にも加入、研修会だけでなく、意見、情報交換できる場をもち、質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただき、本人と話ができるような機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前見学時に、意見や要望を聞き、暫定であるがケアプランを作成。家族に説明、理解をいただくことで、サービス開始時には、安心して利用していただけるように配慮している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前情報をもとに、スタッフ会議にて話合い作成したケアプランを説明。本人、家族にサービス内容を確認していただけるような対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんには、毎日の生活の中で、できる事は自分でしていただき、職員に依存してしまわず、職員は、介護する立場ではなく、助け合い、ともに生きていくという信頼関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人、家族の思いを理解する。疎遠にならないように、FAXや電話でその都度報告するとともに、離れて暮らす家族の思いを本人に伝えていくように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 電話をかける、手紙を書くなど、関係が維持できるように支援をしている。贈り物が届いた際には、必ず職員が届いた事をお知らせすると同時に、気軽に立ち寄っていただけるように声掛けしている。 (外部評価) 利用者が馴染みの関係を維持できるように、日常会話の中に利用者を訪ねてきた友人や知人の話を盛り込み、利用者に印象付ける取り組みを行っている。また、利用者が近隣に馴染めるよう、ちょっとした買い物に頻回に出るようにし、関係性の広がりにも力を入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者さんの個性を理解、把握して、職員が会話に加わることでコミュニケーションの円滑に努めている。また、個々の能力に合わせて声掛けしお手伝いしていただき、本人の意欲向上につなげている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用期間内にしっかりと信頼関係を築いておくことで、終了後も関係を維持できるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者さんが戸惑うことのないように、新しい職員には、必ずフォローしている。長年生活している入居者さんの自分優先的な主張や職員への強い依存に対しては、その時々で柔軟な対応をしている。新しい入居者さんの遠慮から言いだせない思いに対しては、家族の協力を得て、ストレスとならないような対応に努めている。 (外部評価) 利用者の生活歴を丁寧に聞き出し、希望や意向を理解している。聞き出した情報は、利用者の生活を安定させるために重要であることを認識しており、ミーティング等で共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートを参考にしたうえで、更に本人との会話の中でも工夫し引き出していき、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 交代勤務であるが、ケアを一定化させるために、正確な記録、確実な申し送りにて、情報を共有し、不穏状態の改善に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月モニタリングをしている。健康状態の変化や問題がでてきた時、また改善が必要な場合には、必ずスタッフ会議を行っている。家族には、常に詳細を報告し、家族の意見、意向を取り入れている。必要に応じては、医師、看護師に相談し、ケアに役立てている。 (外部評価) 介護計画は、利用者の担当職員と計画作成担当者で素案が作成され、スタッフ会議での話し合いで作成されている。日々の日誌から利用者の体調に関する内容は申し送りノートに記載し、介護計画の資料として活用している。医療面では、母体診療所の婦長による見守りが介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録も大事な仕事の一つであり、記録をみることで、細かな情報が共有できるため、確実な記載に努めている。更には、申し送りでケアの確認、サービスの一定化と徹底に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設されているデイケア、小規模多機能の活用も含めて、スタッフ間や家族と話し合い、その時々に合わせてよりよいサービスが提供できている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所のお店を利用したり、公園に散歩に出かけることで、顔なじみとなり、コミュニケーションがとれている。また、毎年、お神輿や子供の獅子舞に入ってもらうことで地域のお祭りが楽しみとなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 日頃より、かかりつけ医師に細部にわたって状態が報 告できている。緊急時には、職員が同行し、適切な医 療を受けられるよう配慮している。 (外部評価) 運営母体が在宅医療に力を入れている診療所であるた め、ホームを利用する以前から受診している利用者が 多い。日常の体調は職員と診療所の婦長とで見守ら れ、院長の往診も定期的に行われ、医療面の安心感が 高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日、定時連絡し報告している。緊急時には、即対応 してもらえる24時間体制での支援あり。また、週1 回の訪問看護支援もあり、入居者、家族に安心して いただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、再々訪ねて、家族から情報を得ている。 必要時には、家族にかわって、職員が直接対応するな どの支援をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアについて経験あり。入所時に家族の意 向を確認、書類をかわすとともに、意思疎通を図って いる。職員だけでなく、家族とのチームワークケアで ある事も理解いただき、取り組む体制が整っている。 また職員間でも意思確認し、勉強会のテーマにも取り 上げて、法人全体でも取り組んでいる。 (外部評価) 医療と福祉の連携で安心した生活を支援するという理 念のもと、家族と共にターミナルケアを実践してい る。ホームでは、死生観を養ったりホームでの死を迎 える意義等を職務としてだけでなく、人としての姿勢 まで踏み込んだ話し合いがもたれており、終末期のケ アについて真摯に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に医師、看護師に直接指導を受けている。また 随時指導が受けられる体制にある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) すべてにおいて対応マニュアルがある。慌てずに対応できるように緊急連絡網を大きく表示している。また、地域に呼びかけ参加協力のうえ、消防署立会のもと、避難訓練を定期的に行っている。 (外部評価) ホームが有事の場合は近隣者に助けを求め、近所が被害を被った場合はホームが緊急避難場所になる等、双方向の堅固な協力体制が構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 各居室に出入りする際には、必ず声掛けをしている。なるべく一緒に掃除や片づけをし、入居者さんに視線を合わせての声掛け、言葉づかいにも配慮して接するように心がけている。 (外部評価) 職員の個性や年齢などにより、声掛けのニュアンスは異なるが、どの職員からも優しさが感じられる。職員から仕事や用事を依頼されると利用者は笑顔で応じており、相互の信頼関係が構築されていることがうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が遠慮しないで、言い出せる雰囲気づくりをしている。また、職員が入居者の返事が待てる余裕を持るとともに、言葉に表せない方の思いに気づき、対応していけるような指導をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 優先しがちであるが、ケアプラン見直し時やモニタリングの際に、職員同士で再確認し、常にお互いが注意して声掛け、希望にそっての支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容室に外出している。毎日の洋服の組み合わせや、普段着と外出時の違いなども配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人の能力に合わせたお手伝いをさせていただいて、一緒に作る楽しみを支援している。また、個々の食事形態に合わせて、お粥、刻み食を提供している。季節メニューやお誕生日メニュー、行事メニューなどを取り入れて、毎日の食事に変化をつけながら、食事が楽しみになるような工夫をしている。 (外部評価) 食事介助の必要な利用者が多いが、職員は利用者と会話を楽しみながらゆったりと食事をしている。エプロンを付け後片付けを手伝う利用者もあり、食事の時間が楽しいひと時となっていることが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) メニューは、高齢者に合わせた内容で、栄養のバランスや食べる量を考慮し、作成している。水分摂取量をチェックし、本人の負担とならないような方法を取り入れてた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自分のできる方の確認もしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンが把握できており、時間やその人の行動から予測して、トイレ誘導している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。声かけや誘導はプライバシーに配慮しながら、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状態に合わせて、一日の活動量や飲食物にて調整している。(水分量、乳製品、バナナ等)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日の入浴が可能な体制にある。入浴を嫌がる方はいないが、楽しみとなるような工夫をしている。(入浴剤、アロマオイルなどを使用)	
			(外部評価) 入浴は清潔を保つだけでなくアロマケアも取り入れて支援しており、入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日、その時に個々に合わせての休息、就寝時間に配慮できている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日の定期薬には、日付、名前を記入し、しっかりと服薬確認ができています。また、毎日入居者の体調について、医師に報告、細かな指示のもと、様子観察をし、服薬支援をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の役割分担ができています。誕生会、音楽療法、学習療法のほかに、おやつ作りなど楽しみとなる機会を作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くのパン屋、和菓子屋を利用し、顔なじみとなって会話ができています。公園に散歩に出かけることで子供達とのふれあいを楽しんでいる。また家族の協力を得られる方は、ドライブや食事に出かけている。 (外部評価) 玄関先の広いスペースを利用し外気浴を気軽に楽しんだり、近くのコンビニに買い物がてら散歩を楽しんでいる。また、遠出や季節行事にはボランティア団体の協力を得て利用者の外出を支援している。	職員は幼児や小学生とのふれあいを増やしたいと考えており、公園や学校行事への参加を模索している。利用者の生活の質向上へは有用なことなので、早期の実現を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 物取られ妄想や大事にしまい込みすぎてわからなくなるなどのトラブルがあることを家族、本人に説明、理解を得た上で預かる事にしているが、出かけた際には、自分で財布から支払うなどの支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話のかけ方を迷われる方には、職員がかけて、話ができるようにしている。また、職員が相談にのりながら手紙を書くなどの支援ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングは、季節に合わせて壁画を張り替えている。居室の入り口には、本人の部屋とわかるように写真も展示、工夫している。また風通しを考慮し、模様替えをしている。	
			(外部評価) 適度な広さの共用空間で、ダイニングとリビングをうまく機能分離している。食後、ソファに移るだけでも気分が変わり、スペースを生活のシーンでうまく使い分けている。温かな日差しが差し込み、風が通り抜け心地よく過ごせる環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) お互いに定位置があるが、その時々にて対応に工夫できている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 以前から使用していた物を持ち込んでいただいている。本人の要望にて、家族が鉢植えや観葉植物を置かれている。定期的なシーツの洗濯や布団干しをしており、気持ちよく過ごせる工夫をしている。	
			(外部評価) 利用者が使い慣れた家具等が持ち込まれ、写真や絵などが個性豊かに飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者が理解できるように、大きく表示したり、わかりやすい場所に置くなど工夫できている。	